

次期総合計画策定に向けて⑦
子ども達が未来に
夢と愛着を持てるまちに

次期総合計画策定までを、年間を通してお伝えする「シリーズ市政の今」特別編。今回は、「第7次総合計画基本構想の策定」について、舞鶴市総合計画審議会から提出された答申の内容を紹介いたします。



▲総合計画審議会委員からの答申を受けあいさつする多々見市長（右）。この後、市長と委員の間で意見交換が行われました。

学識経験者や産業、教育、福祉関係者、市民団体の代表者ら20人の委員で構成する舞鶴市総合計画審議会（齋藤博実委員長）では、平成29年11月に市長から諮問を受けて以降、計4回の会議を開催。現行計画に沿って市が推進してきた成果や課題を検証するとともに、今後想定されるさまざまな環境の変化を考慮し、基本構想の策定にあたり留意すべき事項を取りまとめられました。

答申では、「活力あるまちづくり」「安心のまちづくり」「心豊かに暮らせるまちづくり」の3つの重点項目とし、市民アンケートや市民ワークショップの結果を踏まえて審議された具体的な取り組みが提言されています。

7月13日、市役所で市長への答申が行われ、同審議会の小西副委員長ら8人の委員が出席。小西副委員長は「この答申には、各委員をはじめ舞鶴市の発展を願う多くの市民の思いが込められています。人口減少や少子高齢化、急速な科学技術の進歩など、時代の変化に対応した、子ども達が未来に夢と愛着を持てる元気なまちづくりが進むことを期待します」と話し、答申書を手渡しました。多々見市長は「本市は合計特殊出生率が非常に高く子どもを生み育てやすい環境ですが、「巨進等」などで転出した子ども達がなかなか帰ってこないという課題がある。北部地域全体で

人口30万人規模の水平的な連携による取り組みや舞鶴港や高速道路網の活用とさらなる機能強化など、ポテンシャルに磨きをかけ、夢と希望と先人への感謝の気持ちを持って、住み続けたい、帰ってきたいと思えるまちづくりを推進したい」と述べました。市では今後、いただいた答申をもとに、総合計画案の作成を進めていく予定です。

総合計画審議会から提出された答申の概要

◆人口減少抑制に向けて
本市では、平成16年から出生数よりも死亡数が上回る自然減少が始まり、転出超過の社会減少も相まって、人口減少が進んでいる状況にある。年齢階層別の人口推計値に目を向けると、高齢者（65歳以上）の数はほぼ横ばいで、生産年齢人口（15歳～64歳）の減少が著しいことを読み取ることができ、本市の人口減少抑制には、この階層に対するアプローチが大きな糸口になるものと考えられる。

◆子ども達が住みたいと思えるまちへ
舞鶴は豊かな自然や歴史・文化、子育てに適した環境など、豊かな地域資源に囲まれ、感性を育



▲舞鶴市総合計画審議会から答申を受け取る多々見市長（右から5人目、7月13日撮影）

【具体的な取り組み】

活力あるまちづくり	◆働く場の創出◆仕事と求職者のマッチング強化◆自衛隊、海上保安庁との連携◆高等専門学校、職業能力開発短期大学校との連携◆地域消費額の拡大◆「稼げる一次産業」のビジネスモデル及びイメージ形成◆「舞鶴赤れんかパーク」をはじめとする交流拠点の整備◆食や歴史文化芸術の活用等◆スポーツ環境の充実◆スポーツツーリズム・スポーツを通じた国際交流の推進◆京都府北部地域をはじめとした他市町との連携◆京都舞鶴港の振興◆エネルギー関連事業の検討◆再生可能エネルギーの推進◆インバウンドの受入体制強化◆多文化共生の推進
安心のまちづくり	◆地域全体での健康づくり・医療体制づくり◆すべての市民が持ちうる力を活かして社会参加できる場づくり◆介護従事者の確保及び育成◆治水対策をはじめとする危機管理・防災力の強化◆多様な情報伝達手段による災害情報の発信◆交通安全対策の推進◆空き地・空き家の活用◆舞鶴版コンパクトシティの推進◆使いやすい公共交通ネットワークの検討及び利用促進
心豊かに暮らせるまちづくり	◆安心して妊娠・出産・子育てのできる環境づくり◆地域コミュニティのあり方検討◆夢に向かって将来を切り拓いていける児童生徒の育成（小中一貫教育の推進）◆文化・芸術の振興◆生涯学習の場の確立◆移住定住の促進◆郷土愛の育成（大人の使命）◆人口動態等の統計的な分析◆環境保全環境対策活動の実施

◆まちづくりの方向性
今後、世界経済の中心はアジアへと移行すると同時に、インバウンドの拡大に伴い、

◆まちづくりの方向性
今後、世界経済の中心はアジアへと移行すると同時に、インバウンドの拡大に伴い、

地方の隅々まで外国人観光客が訪れることも予測されている中、日本海側拠点港「京都舞鶴港」を有する本市の果たす役割はよりグローバルなものになると考えられる。舞鶴市はこれからも東アジアに躍動するまちとして、国際的な視野のもと経済発展を目指すとともに、人口減少や少子高齢化、科学技術の進歩など、時代の変化に対応した、子ども達が未来に夢と愛着を持てる元気なまちづくりを目指すべきである。

※答申書の内容は市ホームページからも閲覧可。

総合計画策定に向けたスケジュール

